

宮代町立須賀小学校の再整備等地域拠点施設整備プロジェクトチーム 視察研修(鷹栖町地区住民センターふらっと)

1 日時・場所

令和5年10月25日(水) 14:15~15:15

北海道鷹栖町地区住民センターふらっと

2 出席者

鷹栖町：上西副町長

鷹栖町まちづくり推進課：戸島課長、大内係長、小松田主査

鷹栖町建設水道課：高見係長

鷹栖町教育課：山本係長

宮代町：新井町長、小川副課長、関根主幹、吉田副課長、高林主査、高橋主査、島村主事、須原主事、福満主事、山下主事

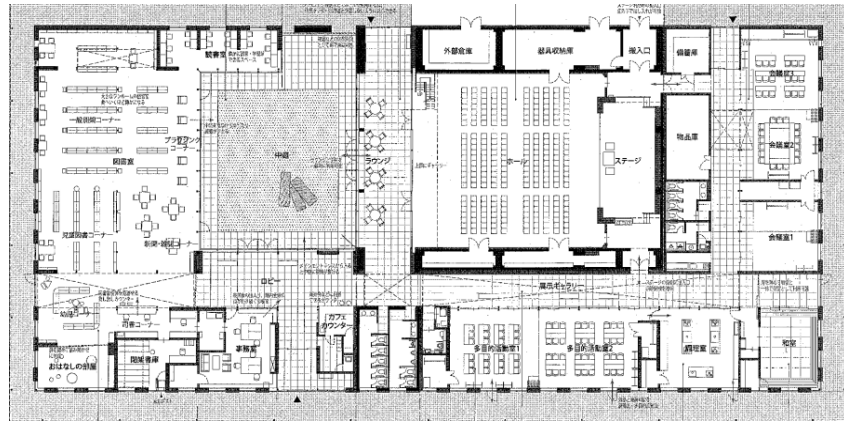
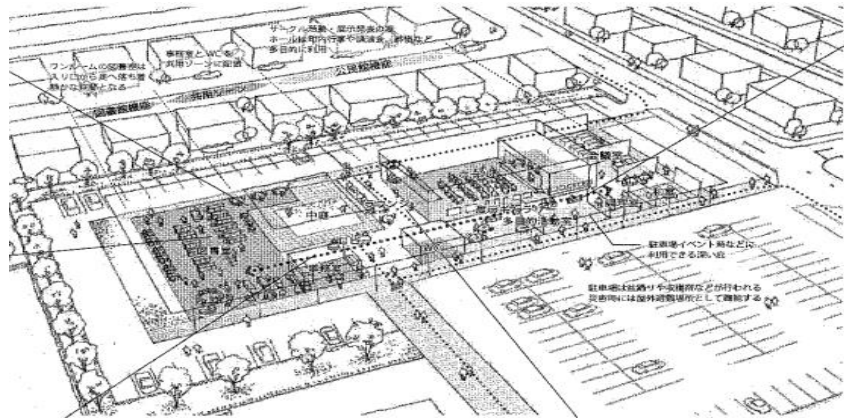
株式会社東畑建築事務所：久保主管、門脇技師

LifeWork：内海氏

3 施設概要

更新の概要	老朽化、非耐震性、非バリアフリー性に伴う建替
設計コンセプト	鷹栖地区内で日中気軽に過ごせる居場所が少ないため、地区公民館としての機能を保持しつつ、すべての鷹栖町民が利用できる図書館機能や多目的ホールを兼ね備えることとした。また、近接する役場施設、幼稚園や小学校、高齢者施設とのネットワーク作りにつながる交流の拠点になるよう、さまざまな世代の町民がふらっと立ち寄れる地域のよりどころとなる居場所づくりを目指した。
複合機能	・公民館 ・図書館
施設概要	建築構造 鉄筋コンクリート造+木造 施設規模 延床面積 2,060㎡ 地上一階

<図面>



視察当日資料より引用

築年数	5年
建設期間	平成29年7月～平成30年11月
施設の沿革	平成26年 建替協議開始 平成27年 基本設計発注 各地区住民協議 小中学校アンケート 平成28年 実施設計発注 平成29～30年 建設工事
防災機能	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所に指定されている。 ・防災備蓄室は建物内にある。 ・避難所対応として、ホール他諸室に段ボールベッド等の設置が可能となっている。受入想定人数は約300人程度。 ・断水対応について、アクアインピット(貯水機能付き給水貯水槽 k1)の設置により、約580人×3日分の飲料水を確保。 ・停電対応について、太陽光パネル電源と可搬形発電機入力により、

	<p>一部照明・コンセントを使用できるようにしている。また、停電時専用コンセントを設置している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下水道対応として、公共下水道インフラ停止の場合に切り替え、汚水槽へ放流する。 ・プロパンガス残量内で炊事等への対応も可能。
--	--

4 現地視察

鷹栖地区住民センターの運営等についての概要説明後、館内視察。

(1) 施設の特徴等について

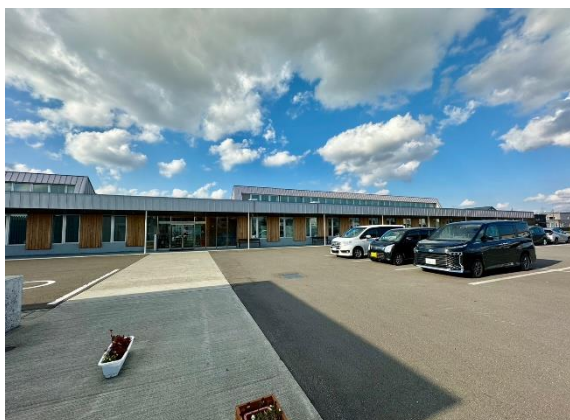
施設入口正面には中庭があり、緩やかに動線の区分が行われている。中庭を挟んで写真左側が図書室機能エリア、写真右側が公民館機能エリアとなっており、子どもの安全な遊び場にもなる。



- ・構造はRC造、木造であり、各所に木材を使った温かみのある空間で、特にカフェのような図書館は居心地よく、くつろげる場所となっている。
- ・中庭があることで、窓からの景観がよく、また、採光により施設内が明るくなっている。
- ・最大250人収容可能な多目的ホールは、日常的なサークル活動等の他、発表会等の町の行事に利用されている。

- ・廊下が展示ギャラリーとなっており、壁自体が展示場所となるよう画鋲・フック・マグネットに対応している。また可動式の衝立の裏面が姿見になっているなど、工夫が随所に見られる。

鷹栖地区住民センター「ふらっと」正面入口。
ホールなどの利用状況にあわせて、2方向から施設内へ入ることが可能。



- ・施設全体がイベント向けとなっている。駐車場や中庭でマルシェを行うことや、エントランスの受付をカウンターとしての利用することも可能である。

地域利用者によるサークル活動などで使用される多目的活動室は、ガラス張りになっていることで、活動の様子を外から見る事ができる。
多目的活動室や会議室前の廊下は、ギャラリーとしても使用できるため、サークル活動の発表の場としても活用されている。



- ・オープンな造りになることに対し、利用者の抵抗感は想定よりも少なく、造りが変わっても従来のように利用する方が多く、また、活動に対して積極的になっている。
- ・ホールでお通夜をするなど町民が様々な用途で使用できる施設となっている。

(2) 図書室について

図書室は靴を脱いで利用することで、よりリラックスして使用できる空間となっている。また、個別のデスクや椅子、集合して使用できるエリアを随所に設けることで、中高生の利用者も増加している。



- 部屋の間仕切りがガラスでできており、図書室の外から見えるだけでなく、本棚の高さを目線以下にすることで空間を遠くまで見通すことができ、実際の面積以上の開放感がある。



- 図書室が「本を借りる」「勉強する」というような目的のある人だけが行く空間ではなく、図書室で時間を使ってほしいという思いから椅子の種類を増やしたり、設置する位置を様々にすることで、時間の過ごし方の幅が広がっている。
- 宮代町に以前あった「ふれ愛センター」のように靴を脱ぐからこそその解放感が居心地の良さにつながっている。

(3) 運営について

- 地区センターは、各地区住民が立ち上げた管理団体が、指定管理委託を受けて運営管理している。令和5年度から集落支援員を各地区に一人配置し、行政と地域住民が、一緒にな

って課題解決や地域の活性化に必要な取組を進めている。

- ・地域との対話に時間をかけて進めており、公民館から地区センターへの移行の過程で、地区住民が主体となった管理団体に運営を指定管理として委託している。
- ・施設管理のソフト面については、地区ごとに配置された地区公民館と中心とした地区公民館運営委員会が事業や講座の企画、運営を行っている。令和5年度からは指定管理についてもハード面とソフト面を一本化し、応募のあった事業者「ふらっと GO(鷹栖地区運営組織・鷹栖地区住民センター指定管理者)」が運営している。
- ・慶応大学SFC研究所と連携して、「ふらっと」を拠点とした施設、市街地の活性化の取組を進めている。

(4) アクセスについて

- ・鷹栖地区外の方が鷹栖地区住民センターを利用することも多い状況の中で、町内バスを利用することで、多方面からのアクセスを可能にしている。

5 所感

- ・規模はそれほど大きくはないが、デザインや採光性により、使い勝手や居心地の良い施設となっており、参考となる工夫が随所に見られた。
- ・施設管理やソフト事業等の管理運営が地域主体となっており、また大学と連携して施設内外の事業を実施するなど、見本となる運営形態であった。
- ・気軽に立ち寄れる雰囲気のあるエントランスとなっている。若者が来館しやすいのは理想的である。
- ・鷹栖町でも施設整備において利用料金の検討をしていたため、宮代町においても施設のランニングコストを含めた使用料の検討が必要。
- ・図書館法に基づいていなくても、図書室は配備できると思うので、鷹栖地区住民センターと同程度の規模の図書室を須賀小地域拠点に配備してもよいのでは。
- ・集落支援員を各地区に一人配置している点について、宮代町もワークショップを通じてそのような活動を行うキーパーソンを積極的に発掘することが、地域活性化につながると改めて感じた。
- ・アクセスについて、4-(5)のとおり運用していたが、宮代町においても町内巡回バスを使用した施設利用者がいる。その中で、宮代町においても循環バスで地域拠点施設までのアクセスに不便はないか、その他のアクセス手段が必要かも含め今後の検討課題である。

6 備考（事前質問回答）

（1）設計・建設までのプロセスについて

No	質問	回答
1	<p>複合化施設の整備にあたり、庁内の検討体制、意思決定のプロセスはどのようなものでしたか。また、検討チーム等の設置はありましたか。</p>	<p>鷹栖地区の住民センターでもあり、鷹栖地区住民の意見を十分に反映させるため、住民協議会を設置して協議を重ねており、そちらの意見をなるべく反映しています。</p> <p>また、図書室併設のため、図書室については読書活動推進協議会を別途設置し、機能や在り方の協議を行いました。</p> <p>庁内の検討チーム設置はしていませんが、関係部署(教育委員会・財政・建築・土木・都市計画)による内部協議を適宜行いました。内部では工事費や事業スケジュール、構造的な部分を主に協議しました。</p> <p>住民協議会及び読書活動推進協議会による協議と、庁内協議を並行して行い、要所で理事者協議や議会説明を行いました。</p>
2	<p>センター開設までのプロセスを教えてください。また、その過程で住民参加はありましたか。</p> <p>地域住民の声はどのように拾いましたか。</p> <p>住民説明会等はどの時点で行いましたか。(基本計画策定時、工事着工前など)。説明会ではどのような意見がありましたか。</p>	<p>住民協議会20回、全体住民説明会を3回、読書推進協議会11回、各地区住民協議5回、小中学校に向けて2回実施している。</p> <p>【出された意見(基本設計時)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太陽光パネル設置の意味合い/冬の試算 ・防災施設としての活用方法 ・除雪対策/屋根雪の状況見込み ・図書室の蔵書予定/閲覧席の予定 等 <p>その他、定期利用しているサークルなどからも細かな意見が多くあり、総合的にふまえて設計。</p>

(2)施設について

4	複合化に伴う多機能部分の動線についての工夫や配慮した点は何ですか。また、利用者の安全確保のため、工夫されている点がありますか。	公民館、図書機能を配置した複合施設となっています。メイン入口から進んで中庭とロビーを設けることで、どちらにも足を運びやすくなるように、緩やかに機能を分けています。メインエントランスとサブエントランスを設けて通路にゆとりを持たせています。ラウンジ機能もあるので、利用者が休憩したり、気軽に集うことができるように工夫をしています。安全確保については、各方向から避難ができるように入出入口を設けています。(非常避難口は7か所)
5	なぜ旧地区住民センターに併設されていた図書館を拡張し、30,000冊収容の図書室を併設することになったのですか。	旧センターに併設されていた図書室は広さも十分ではなく、蔵書数は10,000冊以下、閲覧できるスペースや中高生が学習で使うスペースなどが確保できていませんでした。住民からも拡充や図書館としての設置を求める声が多くあり、改築にあわせて拡充しました。
6	自然光を取り込めるよう、設計をした際に何か工夫をしましたか。	図書室機能もあるため、基本的には建物周囲に庇を設け、直射日光を避ける設計をしています。ハイサイドや中庭を各所に設け、自然光を取り込む工夫をしています。
7	当該施設は避難所になっていますか。避難所の場合、施設の防災機能について教えてください。	<ul style="list-style-type: none">・避難所対応：ホール他諸室に約300名程度の段ボールベッド等の設置が可能。・断水対応：アクアインピット(貯水機能付き給水貯水槽5kℓ)の設置により、約580人×3日分の飲料水を確保している。・停電対応：太陽光パネル電源と可搬発電機入力により、一部照明・コンセントを使用できるようにしている。停電時専用コンセントを設置。・下水道対応：公共下水道インフラ停止の場合、切替汚水槽へ放流する。・その他：プロパンガス残量内で炊事等の

		対応も可能。
--	--	--------

(3) 運営について

8	地域運営モデル地区3年間の取り組みの成果と、運営体制を教えてください。	<p>地域運営モデル地区3年間の取り組み成果としましては、地域づくりの拠点である地区公民館運営委員会と行政が協働し、住民主体の地域づくりを支援しました。「ふらっと」建設に向けた話し合いを成果に繋げるための3つの取り組み目標として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区計画の策定 ・トライアル的に事業を施行 ・地域組織の在り方の検討 <p>を掲げ、それぞれの目標に向けて活動しました。</p> <p>運営体制としては、指定管理者制度に基づき、地区住民が中心となって立ち上げた管理団体が管理運営しています。運営の基本方針として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすい一体的な地域の運営体制の実現 ・より幅広く充実した地域活動 ・地区の事務局機能を強化 <p>を掲げています。</p>
9	安全性確保(警備等)体制はどのようになっていますか。	<p>セキュリティ機器の導入は現時点ではしておりません。機械警備配線(監視カメラ等を想定)は用意しており、警備関連の機器を設置することは可能となっていることから、今後の検討課題となっております。</p>
10	町内の公共施設がコンパクトにまとまっておりませんが、施設間の相互連携はありますか。また、図書館機能と公民館機能が一緒にあることで、どのような使われ方をされていますか。	<p>各施設における役割・機能等のすみわけを行っており、用途に応じて利活用をしています。また、昨年度より慶應義塾大学SFC研究所と連携して「ふらっと」を拠点とした施設・市街地活性化の取り組みを進めています。</p> <p>図書館機能と公民館機能が一緒にあることで、相互の活動や内容を利用者が知るこ</p>

		とができ、一定の相乗効果があると思われます。
1 1	センターの中で特に使われている場所はどこですか。また、意外な使われ方をしている場所がありますか。	利用頻度で一番多いのが多目的室です。サークル活動や運動教室、各種会議などで使われています。 意外な使われ方としては、ちょっとした休憩に和室が使われていたり、企業の面接で会議室が使われていたり、目的外使用で営利目的での活動などでも使われています。
1 2	施設に人が集まる、または活動が生まれるための工夫があれば教えてください。また、多世代交流の取り組みがあったら教えてください。	従来、総合体育館で行っていた町民文化祭の作品展示(11月3日開催)を、「ふらっと」に場所を変更して実施しています。部屋数が十分にあるため、様々な文化体験ができる取り組みを新たにスタートさせ、多世代が集う場づくりを行っています。また、図書室の行事として「図書室まつり」を昨年度から開催し、ホールでの講演会など、施設全体を活用した取り組みにより効果的な活用ができています。 その他、運営組織が主催するイベントや各種教室において多世代交流などが行われています。

(4) その他

1 3	人口 7,000 人の町ならではの工夫と、苦勞している点がありますか。	小さな町だからこそ、使いたいときにいつでも使える利便性の高い施設となっています。一方で施設内での活動や利用方法などの可視化やPRは課題となっており、運営組織や住民、外部の力など連携して取り組みを進めています。
1 4	建設にあたりどのような補助金や地方債を活用しましたか。活用にあたり作成した計画や調整した事項はありますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金：都市構造再編集中支援事業補助金(都市再生整備計画事業) ・起債：過疎債 ・計画：都市再生整備計画、立地適正化計画
1 5	これから施設を作るにあたり、アドバ	・実際に利用する団体との協議や理解が

	イスがあればお願いします。	<p>重要と考えます。</p> <ul style="list-style-type: none">・施設のトラブルとしては木造棟があり、EHP 暖房を採用しているため、木材の乾燥によるひび割れや、北海道ならではの松ヤニが出ることもあるので、木材の活用方法については検討が必要です。後に業務用加湿器の設置や木材の穴埋め、交換対応を行っています。
--	---------------	--